

# 高等学校部会

## 1 研究主題

生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを  
継続するための資質・能力を育む保健体育科学習の在り方  
～主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業の創造と展開～

## 2 日 程

	9:00	9:50	10:45	11:45		13:30	14:30	15:00		16:30				
	8:40	9:40	10:35	11:35	12:35		14:20	14:45		16:00				
受付	開 会 行 事  (40分)	視 点 説 明	公 開 授 業  (45分)	小 学 校	公 開 授 業  (50分)	特 別 支 援	公 開 授 業  (50分)	中 学 校	昼 休  食 憩  (55分)	公 開 授 業  (50分)	高 等 学 校	指 導 助 言 り (全 体) (15分)	授 業 研 究  (4部 会) (60分)	閉 会 行 事

### ① 公開授業

種 別	学 年	単 元	発 表 者
高等学校	第3学年	球 技 (ゴール型：サッカー)	県立日向工業高等学校 教 諭 徳 峰 敬 祐

### ② ワークショップ型授業研究

部 会	役 職	氏 名
高等学校	指導助言者	日本女子体育大学教授 高橋 修一
	司会者	県立日南振徳高等学校 教諭 高野 茂嘉
	記録者	県立高千穂高等学校 教諭 佐藤 知穂
		県立延岡青朋高等学校 講師 室谷 知江美
コーディネーター	県立宮崎南高等学校 教諭 工藤 英世	
	県立都城西高等学校 教諭 日高 大輔	

令和4年 11月 17日 (木)

第3学年 機械科 (男子16名)

場所 日向市お倉ヶ浜総合公園 サンドーム日向

指導者 徳 峰 敬 祐

## 1 単元名 ゴール型ゲーム (サッカー)

### 2 単元の目標

- (1) 次の運動について、勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。ゴール型では、状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などから攻防をすることができるようにする。

(知識及び技能)

- (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができるようにする。

(思考力、判断力、表現力等)

- (3) 球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。

(学びに向かう力、人間性等)

### 3 運動の一般的特性

球技は、ゴール型、ネット型及びベースボール型などから構成され、個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団、個人対個人で勝敗を競うことに喜びを味わうことのできる運動である。

入学年次の次の年次(その次の年次)以降の球技では、多様な楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方などを理解するとともに、仲間と連携しゲームを展開すること、生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題に取り組み、考えたことを他者に伝えること及び球技に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保できるようにする。

なお、球技の多様な楽しさを味わうこととは、勝敗を競ったりすることを通して得られる楽しさや喜びに加えて、体力や技能の程度等にかかわらず、「する、みる、支える、知る」などのスポーツの多様な楽しさや喜びを味わうことである。

指導に際しては、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の内容をバランスよく学習させ、自己に適したスポーツとの多様な関わり方を考える機会を充実することで、生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指すことが大切である。

## 4 生徒の実態

### (1) 運動に触れる楽しさの体験状況

サッカー部に所属している生徒もしくは経験者は、16名中7名である。また、運動部に所属している生徒は12名いるため、授業に対して意欲的に取り組む生徒が多い。しかし、事前の調査結果から、基礎技術が身に付いていないと感じている生徒も多くいる。特に、ボールを持たないときの動きが分からないという生徒が多くいた。ゲームのルールに関しては、入学年次やその次の年次で行った、知識のテストなどを通してある程度理解している。

### (2) 「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の習得状況

「知識及び技能」に関しては、1・2年次で、全員がサッカーの授業を履修している。そのため基本動作や基本的な技術を習得できている生徒は多くいるが、仲間と連携した動きが苦手である。

「思考力、表現力、表現力等」に関しては、技能習得の個人差を踏まえながら、経験者が中心となり、課題解決に向けて練習方法を考案し、取り組んでいる。

「学びに向かう力、人間性等」に関しては、球技に主体的に取り組むとともに、体力や技能の程度、一人一人の違いを認めながら、学習課題の解決に向けて仲間の学習を援助することが出来るようにすることが課題である。

### (3) 体力の状況

	男子				
段階	A	B	C	D	E
人数	5	10	1	0	0
%	31.25	62.5	6.25	0	0

今年度の体力テストのサッカー選択生の総合評価の割合は、A段階の生徒が31.25%、B段階の生徒が62.5%、C段階の生徒が6.25%という結果であった。体力テストの種目別で見ると長座体前屈やハンドボール投げ、立ち幅跳びに課題があることが分かった。

## 5 学習を進めるにあたって

本単元では、健康の保持増進や体力の基礎要素やその高め方及び運動する意欲の向上を図る学習内容となっている。体育理論で学習したことを実際に用いて、チームや自己の課題を発見し、課題解決をしていくことを学ぶには最適な領域だと考える。単元の前半は高体連県北支部教科研究委員会で作成したスキルチェック評価表を使用しながら、個人スキルの学び直しを行う。単元後半は、チームでの作戦を遂行するためのチーム練習を行う。そのような練習を行っていくなかで、ICTをチームや自己の課題解決のために利用していきたい。様々なICTの活用方法が考えられるが、運動量を確保することを念頭に置きながら単元を進めていきたい。また、技能の評価を行う場合は評価基準を明確にするため、ルーブリック評価を用いて、生徒に示していきたいと考える。

日向・東白杵地区研究部が作成した学習内容系統図を用いながら、小中高特のつながりのある学習ができるように学習をすすめたい。

6 単元の評価規準（・第2学年 ○第3学年 ◎第2・3学年共通）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的	
内容のまとめりの評価規準	<p><b>【知識】</b></p> <p>○球技では、各型の各種目の局面ごとに技術や戦術、作戦の名称があり、それぞれの技術、戦術、作戦には、攻防の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の方法があることについて学習した具体例を挙げている。</p> <p>・球技の型や種目によって必要な体力要素があり、その型や種目の技能に関連させながら体力を高めることができることについて言ったり書き出したりしている。</p> <p>○課題解決の方法には、チームや自己に応じた目標の設定、目標を達成するための課題の設定、課題解決のための練習方法などの選択と実践、ゲームなどを通じた学習成果の確認、新たな目標の設定といった過程があることについて言ったり書き出したりしている。</p> <p>・競技会で、ゲームのルール、運営の仕方や役割に応じた行動の仕方、全員が楽しむためのルール等の調整の仕方などがあることについて学習した具体例を挙げている。</p>	<p><b>【技能】</b></p> <p>・防御をかわして相手陣地やゴールにボールを運ぶことができる。</p> <p>・味方が作り出した空間にパスを送ることができる。</p> <p>・空いた空間に向かってボールをコントロールして運ぶことができる。</p> <p>・守備者とボールの間に自分の体を入れて、味方と相手の動きを見ながらボールをキープすることができる。</p> <p>・隊形を整えるためにボールを他の空間へ動かすことができる。</p> <p>○自陣から相手陣地の侵入しやすい場所に移動することができる。</p> <p>○シュートやトライをしたり、パスを受けたりするために味方が作り出した空間に移動することができる。</p> <p>・侵入する空間を作り出すために、チームの作戦に応じた移動や動きをすることができる。</p> <p>・得点を取るためのフォーメーションやセットプレイなどのチームの役割に応じた動きをすることができる。</p> <p>○チームの作戦に応じた守備位置に移動し、相手のボールを奪うための動きをすることができる。</p> <p>・味方が抜かれた際に、攻撃者を止めるためのカバーの動きをすることができる。</p> <p>○一定のエリアから得点しにくい空間に相手や相手のボールを追い出す守備の動きをすることができる。</p>	<p>・選択した運動について、チームや自己の動きを分析して、良い点や修正点を指摘している。</p> <p>・課題解決の過程を踏まえて、チームや自己の新たな課題を発見している。</p> <p>・チームや自己の課題を解決するための練習の計画を立てている。</p> <p>・練習やゲームの場面で、チームや自己の危険を回避するための活動の仕方を提案している。</p> <p>○練習やゲームを行う場面で、チームや自己の活動を振り返り、よりよいマナーや行為について提案している。</p> <p>○チームでの学習で、状況に応じてチームや自己の役割を提案している。</p> <p>◎チームでの話合いの場面で、合意を形成するための調整の仕方を見付けている。</p> <p>・体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに球技を楽しむための調整の仕方を見付けている。</p> <p>○球技の学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を見付けている。</p>	<p>○球技の学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>・フェアなプレイを大切にしようとしている。</p> <p>・作戦などを話し合う場面で、合意の形成に貢献しようとしている。</p> <p>○一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとしている。</p> <p>○仲間の課題を指摘するなど、互いに助け合い高め合おうとしている。</p> <p>・危険の予測をしながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保している。</p>

<p>単元の評価規準</p>	<p>①球技では、各型の各種目の局面ごとに技術や戦術、作戦の名称があり、それぞれの技術、戦術、作戦には、攻防の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の方法があることについて学習した具体例を挙げている。</p> <p>②課題解決の方法には、チームや自己に応じた目標の設定、目標を達成するための課題の設定、課題解決のための練習方法などの選択と実践、ゲームなどを通じた学習成果の確認、新たな目標の設定といった過程があることについて言ったり書き出したりしている。</p>	<p>①自陣から相手陣地の侵入しやすい場所に移動することができる。</p> <p>②シュートをしたり、パスを受けたりするために味方が作り出した空間に移動することができる。</p> <p>③チームの作戦に応じた守備位置に移動し、相手のボールを奪うための動きをすることができる。</p> <p>④一定のエリアから得点しにくい空間に相手や相手のボールを追い出す守備の動きをすることができる。</p>	<p>①練習やゲームを行う場面で、チームや自己の活動を振り返り、よりよいマナーや行為について提案している。</p> <p>②チームでの学習で、状況に応じてチームや自己の役割を提案している。</p> <p>③チームでの話合いの場面で、合意を形成するための調整の仕方を見付けている。</p> <p>④球技の学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を見付けている。</p>	<p>①球技の学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>②一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとしている。</p> <p>③仲間の課題を指摘するなど、互いに助け合い高め合おうとしている。</p>
----------------	---	--	--	---

7 単元の指導と評価の計画（10時間）

時間		1	2	3	4	5	6
指導内容	知	①		②			
	技		①		②		(②)
	思		①		②	③	
	学	①		②		③	
学習過程	0	集合、あいさつ、健康観察、本時のめあての確認					
	50	オリエンテーション	ボール操作 ・パス ・トラップ ・シュート ・ドリブル	活動① ・W-UP、①スキルチェック練習 練習②チーム練習 ・攻撃練習			
		準備運動	簡易ゲーム	ミニゲーム ・4対4		ゲーム	
		試しのゲーム					
		整理運動、学習の振り返り、本時の振り返り、次時の確認、あいさつ					
評価の機会	知	①カード		②観察・カード			
	技			①観察・映像			②観察・映像
	思		①カード		②観察・カード	②観察・カード	
	態				②観察		
準備物		ボール、ビブス、タブレット、作戦ボード					
カリ・マネ	体育理論	健康・安全の確保の仕方					技能の上達過程
	保健						
	他教科						

時間		7	8	9	10
指導内容	知				
	技	③	④		
	思			④	
	学				
学習過程	0	集合、あいさつ、健康観察、本時のめあての確認			
	50	活動① ・W-U P、①スキルチェック練習	活動① ・W-U P、ボール操作		
		活動② ・チーム練習（守備）	活動②チーム練習（攻撃）  練習③チーム練習（守備）		
		ゲーム	ゲーム		
	整理運動、学習の振り返り、本時の振り返り、次時の確認、あいさつ				
評価の機会	知				総括的な評価
	技		③観察・映像	④観察・映像	
	思			④カード	
	態	③観察・映像			
準備物		ボール、ビブス、タブレット、作戦ボード			
カリ・マネ	体育理論				ライフスタイルに応じたスポーツとの関わり方
	保健				
	他教科				

## 8 本時の学習（6／10時間）

### （1） 本時の目標

- シュートをしたり、パスを受けたりするために味方が作り出した空間に移動することができるようにする。  
(技能)

### （2） 本時の評価項目

- シュートをしたり、パスを受けたりするために味方が作り出した空間に移動することができる。  
(技能)

## 9 学習指導過程

段階	時間	学習内容及び 学習活動	指導上の留意点	○：評価の項目 (評価方法)【Aの例】	「努力を要する」状況と判断 される生徒への手立て	
はじめ	7分	1 用具や場の準備 2 集合、整列、挨拶 3 健康観察 4 準備運動・スキル チェック	・コロナ感染防止対策をとる。			
なか	35分	5 本時のねらいの確認				
		シュートをしたり、パスを受けたりするために味方が作り出した空間に移動				
		6 チーム練習 ・ICTを活用	・各チームで試合に向けたトレーニングを考案または選択（ICT）して行う。	○シュートをしたり、パスを受けたりするために味方が作り出した空間に移動することができる。  (映像・観察) 【Aの例】 味方が作り出した空間に意図的にシュートをしたり、パスを受けたりするために移動することができる。	○コートを手で区切ることで、どの空間が空いているのかが分かるよう可視化する。	
7 ゲーム ・7分ゲーム ・7分分析 ・7分ゲーム	・ICTを活用し、基本動作や空間の活用の仕方等の動画を撮影させる。  ・撮影した動画を活用し、チーム内で振り返りをさせる。					
8 チーム振り返り ・ICTを活用 ・発表（良かった点・修正点）	・Google Classroomを用いてチームや自己の振り返りを行う。					
まとめ	8分	9 本時のまとめ  10 整理運動、片付け	・課題解決の過程を通して、分析した内容の伝え方についての振り返りを行う。  ・次時の課題解決に向けての意欲向上を図る。			